
製品名：生石灰

1. 製品及び会社情報

製品名 : 酸化カルシウム
会社名 : 全国農業協同組合連合会
担当部署 : 耕種資材部
住所 : 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号 : 03-6271-8285
FAX番号 : 03-5218-2536
電子メールアドレス : zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡番号 : 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外

水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分 5
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵・ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 1C
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 1（呼吸器系） 区分 2（全身毒性、消化器）
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 1（呼吸器系）
吸引性呼吸器有害性	区分 1
環境に対する有害性	
水生環境有害性（急性）	区分外
水生環境有害性（長期間）	区分外

2.2 ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H303：飲み込むと有害のおそれ H314：重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 H318：重篤な眼の損傷 H370：臓器の障害（呼吸器系） H371：臓器の障害のおそれ（全身毒性、消化器） H372：長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害（呼吸器系）

	H304：飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
注意書き	
安全対策	P260：粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸引しないこと。 P264：取り扱い後はよく洗うこと。 P280：保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 P270：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
応急処置	P312：気分が悪いときは医師に連絡する。 P301+P330+P331：飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 P303+P361+P353：皮膚（又は髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。 P305+P351+P338：眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P304+P340：吸引した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。 P363：汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
保管	P405：施錠して保管すること。
廃棄	P501：内容物/容器を国・地域の全ての法律に従い廃棄すること。

3. 組成、成分情報

3.1 単一製品または混合物：単一製品

3.2 化学物質

化学名又は一般名	酸化カルシウム(Calcium Oxide)
化学式	CaO
濃度または濃度範囲	93%以上
官報公示整理番号	
化審法	(1) -189
安衛法	公表
CAS番号	1305-78-8

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	製品に触れた部分を直ちに、石鹸と流水又はシャワーで洗うこと。 必要に応じて医師の診断を受けること。
目に入った場合	目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合	速やかに口をすすぎ、無理に吐かせず、直ちに医師の診断、手当を受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛 皮膚：皮膚の乾燥、発赤、皮膚熱傷、灼熱感、痛み 眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷 経口摂取：灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐、下痢
遅発性症状	肺水腫
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて保護眼鏡、保護手袋、防塵マスク等の適切な保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項	眼の中で水分やたんぱく質と反応して生成した塊は、水洗浄で除去するのは困難。医師の手で除去が必要。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤	二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。
5.2 使ってはならない消火剤	棒状注水
5.3 特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して腐食性又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。
5.4 特有の消化方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 少量の場合は、乾燥砂等で被覆し、窒息消火する。 容器内に水を入れてはいけない。
5.5 消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器を含め、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項	保護手袋、保護眼鏡、防塵マスク、長靴等の保護具を着用し、粉塵を吸入したり、皮膚への付着を防止する。
6.2 環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
6.3 回収、中和	漏出、飛散した場合には、掃除機、スコップ、箒等により、できるだけ粉体の状態で回収し、廃棄まで容器で保管する。 回収品は、13.廃棄上の注意に従い廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い	
技術的対策	皮膚に付いたり、粉塵を吸入しないように適切な保護具（防塵眼鏡、防塵マスク、保護手袋等）を着用する。
局所排気・全体換気	局所排気装置を使用するか、換気のよい場所で取扱う。
注意事項	水と接すると激しく発熱し、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生する。
7.2 保管	

保管条件	大気との接触をできるだけ少なくし、水との接触を避けて保管する。 その他、消防法の定めるところに従う。
容器包装材料	ポリ袋、ポリ容器、フレコン、鉄製容器

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。	
許容濃度	ACGIH(2014 年度版)	TLV-TWA 2mg/m ³
許容濃度	日本産業衛生学会 (2014 年度版)	TWA 2 mg/m ³ (吸入性粉塵) TWA 8 mg/m ³ (総粉塵)
設備対策	できるだけ密閉された装置。粉塵が発生する場合には、局所排気を設置する。	
保護具		
呼吸器の保護具	防塵マスク	
手の保護具	保護手袋	
眼の保護具	保護眼鏡、保護ゴーグル	
皮膚及び身体の保護具	保護衣、安全靴等 (皮膚の露出が少ない作業服)	

9. 物理的及び化学的性質

外観	粉末/個体
色	白
pH	12～13
臭い	無臭
融点	2570℃
沸点	2850℃
引火点	不燃性
比重	3.3～3.4
溶解度	0.12g/100g 水。水と反応し消石灰を生成する。この時発熱する。
自然発火温度	不燃性
燃焼性	不燃性

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性	空気中の水、炭酸ガスを吸収して水酸化カルシウムと炭酸カルシウムを生成する。 水と反応し、水蒸気を発生する。この際、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生することがある。
10.2 安定性	不燃性
10.3 危険有害反応性可能性	水と反応し、水蒸気を発生する。この際、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生することがある。 酸と激しく反応する。
10.4 避けるべき条件	水、酸類との接触。

11. 有害性情報

急性毒性	経口マウス♂LD ₅₀ =4226mg/kg 経口マウス♀LD ₅₀ =4052mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	湿った皮膚に対して強い刺激性
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	目に対して腐食性があり、最悪の場合、失明する
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：データなし 皮膚感作性：ヒトの試験で陰性
生殖細胞変異原性	酵母菌による有糸分裂組み換え試験で陰性、エームズ試験で陰性
発がん性	データなし
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器(単回ばく露)	粉じん吸入は気道の炎症、肺炎のおそれ。 誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる。
特定標的臓器(反復ばく露)	鼻中隔の潰瘍、穿孔の報告がある。 長期または反復ばく露による呼吸器系の障害。
吸引性呼吸器有害性	ヒトで吸引性肺炎が報告されている。

12. 環境影響情報

12.1 生体毒性	魚類(コイ)の96時間 LC ₅₀ =1070mg/L
12.2 残留性、分解性	データなし
12.3 生体蓄積性	データなし
12.4 土壌中の移動性	データなし
12.5 オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
中和法	発熱のおそれがあるので、大量の水中に投じ、水溶液とし、これを酸で中和して処理する。
汚染容器及び包装	内容物を取り除いた後、地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

1910

国連輸送品名	Calcium Oxide
国連分類	クラス 8 腐食性物質
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	ICAO/IATA の規定に従う
MARPOL 73/78	該当しない
国内情報	
陸上規制	該当しない
海上規制	該当しない
航空規制	航空法に従う

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 (法第 57 条の 2、施行令 18 条の 2 別表 9)
消防法	貯蔵等の届出を要する物質(1 条の 10) CaO80%以上を 500kg 保管する場合
航空法	腐食性物質 (施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 腐食物質)

16. その他

※この製品安全データシートは各種の文献などに基づいて作成しておりますが、必ずしも全ての情報を網羅しているものではありませんので、取扱には十分に注意して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

本 SDS は、下記吉澤石灰株式会社の情報をもとに作成しました。該当物質については下記にお問い合わせください。

会社名	: 吉澤石灰工業株式会社
住所	: 栃木県佐野市宮下町 7-10
電話番号	: 0283-84-1117
緊急連絡電話番号	: 同上
FAX 番号	: 0283-84-1127